

レジュメでの主な論点に関して

- 1. 「緑の福祉国家／持続可能な福祉社会」の展望
- 2. 日本の福祉思想をめぐって
- 3. 福祉の“二極化”と幸福／不幸
- (付論) 地域再生とコミュニティ経済 —— 「相互扶助の経済」の展開

1

1. 「緑の福祉国家／ 持続可能な福祉社会」の展望

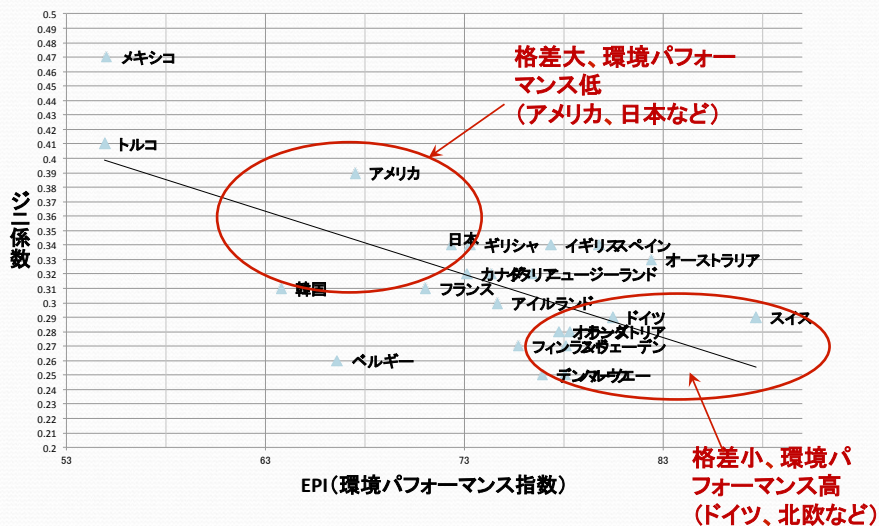
2

目指すべき社会モデル

- 「**持続可能な福祉社会**sustainable welfare society」
 - 「**個人の生活保障や分配の公正が実現されつつ、それが環境・資源制約とも調和しながら長期にわたって存続できるような社会**」
 - **環境**・・・富の**総量**の問題 **持続可能性**
 - **福祉**・・・富の**分配**の問題 **平等、公正**
- の両者の統合。
- 「**定常型社会**」(=経済成長を絶対的な目標とせずとも、十分な豊かさが実現されていく社会) というコンセプトとも不可分。

3

「持続可能な福祉社会(緑の福祉国家)」指標



(注)ジニ係数は主に2011年(OECDデータ)。EPIはイェール大学環境法・政策センター策定の環境総合指数。

(出所) 広井研究室作成。

4

なぜ「福祉パフォーマンス(平等度)」 と「環境パフォーマンス」は一定以上 相関するのか？

- **格差の大きい国・社会** →①“負け組”になった時の困難が大きいため競争圧力大、②「再分配」への合意が弱い
- →環境配慮や持続可能性よりも、もっぱら“**「パイの拡大」による解決**”に関心が向かう。しかし消費性向の高い中所得以下の層の需要が伸びない。… アベノミクス！
- **格差の小さい国・社会** →上記のような問題がないため、**環境や持続可能性にも十分な配慮**。また、**再分配**により、消費性向の高い中所得以下の層の需要も堅実に伸び**経済にもプラス**。 …ドイツ、オランダ、北欧、スイス

5

「緑の福祉国家(持続可能な福祉社会)」

- 環境保全あるいは脱生産主義的な志向をもった福祉国家
 - **ローカルレベルの地域内経済循環(自然エネルギー等)から出発 & ナショナル、グローバルレベルの重層的な再分配**
 - **資本主義システムの根幹に遡った社会化**
 - 「市場・政府・コミュニティ」のクロス
- 概括的な国際比較
- 1) 緑の福祉国家A: ドイツ、デンマーク (オランダ) …分権的、脱生産主義的
 - 2) 緑の福祉国家B: スウェーデン (フィンランド)
…「環境近代化(ecological modernization)」的
 - 3) 通常の福祉国家: フランス
 - 4) 非環境志向・非福祉国家: アメリカ (日本)

6

「環境－福祉－経済」の総合化 ――鍵概念としての「時間」？――

	機能	課題ないし目的
環境	「富の総量(規模)」 に関わる	持続可能性
福祉	「富の分配」に関わ る	公平性(ないし 公正、平等)
経済	「富の生産」に関わ る	効率性

7

2. 日本の福祉思想をめぐって

8

タイガーマスクと福祉思想

- 2010年末に各地で「伊達直人」が出没。児童養護施設等にランドセルなどを届ける。最近も再び出現している模様。
- 戦後の日本(特に高度成長期)
…パイが拡大する中で、「損得」のみで物事が解決した時代。
- 最近～これから…もう一度「福祉思想」や「幸福」「正義」などの意味を考え直す時代。

9

テツオ・ナジタ『相互扶助の経済』の議論

- 近世までの日本には、「講」に代表されような「**相互扶助の経済**」の**伝統が脈々と存在**していた。
- しかもそれは二宮尊徳の報徳運動に象徴されるように、村あるいは個別の共同体の境界を越えて講を結びつけるような広がりをもっていた。
- 明治以降の国家主導の近代化の中でそうした伝統は失われあるいは変質していったが、しかしその“DNA”は日本社会の中に脈々と存在しており、震災などでの自発的な市民活動等にそれは示されている。

10

テツオ・ナジタ『相互扶助の経済』の議論(続き)

- 上記のような相互扶助の経済を支えた江戸期の思想においては、「**自然はあらゆる知の第一原理であらねばならない**」という認識が確固として存在していた。
- 「これら徳川時代の思想家すべてにとって、自然という前提は第一の原理であった(「自然第一義」)。この見解は、自然は無限であり、個々の事物や人(昌益の言葉でいえば「ひとり」)は無限であり、すべてが普遍的な天つまり自然から、分け隔てもなく、他者とのあいだに優劣をつけられることもなく、恵みを受けるというものであった。」

11

『相互扶助の経済』の議論に関する若干の疑問

- 日本における相互扶助的伝統をやや**過大評価**してはいないか?・・・日本社会における相互扶助は、基本的には個別の共同体に完結する傾向が強く、それを越えたつながりの形成は概して弱いのでは。
- それとも、江戸期にはそうした個々の共同体を越えた「つながりの原理」が現在よりも存在していたのか?
- **そうした(普遍的な)原理としての「自然」**(あるいは生命)の意味ないし可能性。
- (参考)末木文美士『草木成仏の思想』サンガ、2015年

12

(参考) 農村型コミュニティと都市型コミュニティ

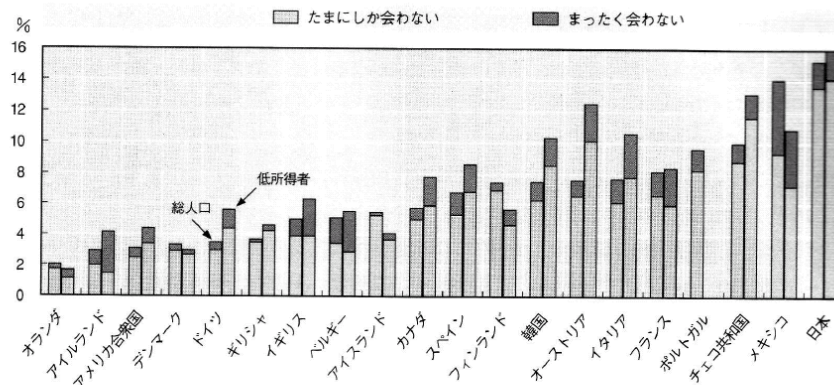
	農村型コミュニティ	都市型コミュニティ
特質	“同心円を広げてつながらる”	“独立した個人としてつながらる”
内容	「共同体的な一体意識」	「個人をベースとする公共意識」
性格	情緒的（&非言語的）	規範的（&言語的）
関連事項	文化	文明
	共同性	公共性
ソーシャル・キャピタル	結合型(bonding)	橋渡し型(bridging)

13

先進諸国における社会的孤立の状況

…日本はもっとも高。個人がばらばらで孤立した状況

図1.3 OECD加盟国における社会的孤立の状況 2001年



注：この主観的な孤立の測定は、社交のために友人、同僚または家族以外の者と、まったくあるいはごくたまにしか会わないと示した回答者の割合をいう。図における国の並びは社会的孤立の割合の昇順である。低所得者とは、回答者により報告された、所得分布下位3番目に位置するものである。

出典：World Values Survey, 2001.

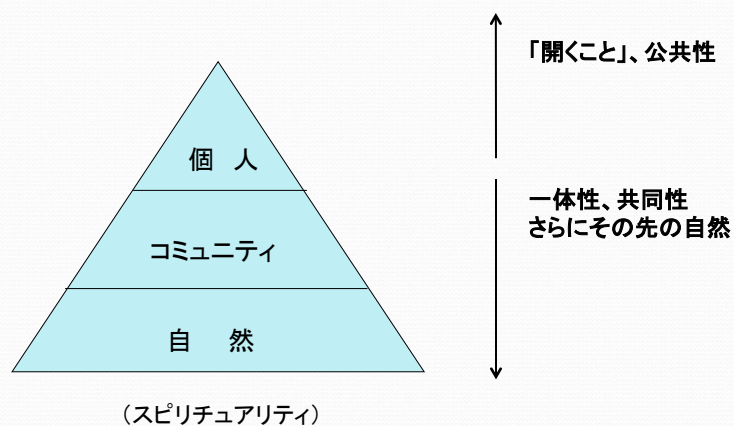
14

日本社会：“稲作の遺伝子”

- ウチとソトの明確な区別
- 「空気」への同調性と外部への排他性
- 2000年におよぶ稲作社会で培われてきた意識・行動様式が、急速な都市化とズレ。
 - 「関係性の進化」の途上。

15

「つながり」の二つの回路： コミュニティを越える規範原理とは



16

日本における福祉思想の 過去・現在・未来(1)

- 1. 江戸時代まで→「神仏儒」を組み合わせで一定のバランスを保つ。
 - * 神道→自然と神々の領域
(&地域コミュニティ)
 - * 仏教→精神ないしこころの領域
 - * 儒教→社会規範や倫理、「徳」の領域

(参考) フランスの哲学者ガタリのいう「**3つのエコロジー**」(自然のエコロジー、精神のエコロジー、社会のエコロジー)とも対応。

17

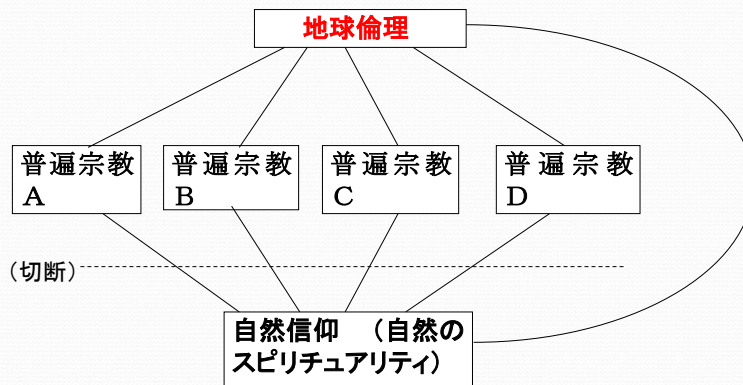
日本における福祉思想の 過去・現在・未来(2)

- 2. 明治期～戦前
 - ・国家神道への一元的統合 (欧米に対抗する価値原理としての応急措置ないし“突貫工事”)
→福祉思想の形骸化(政治化)
- 3. 戦後
 - ・経済成長～物質的なものへの集中 福祉思想の空洞化
 - ・その動揺と閉塞化 (1990年代前後～)
- 4. 今後の展望 …福祉思想の再構築
 - ・「神仏儒(その地域における伝統的な価値原理)
プラス個人 (近代的な価値原理)
プラス・アルファ」… 「地球倫理」?

18

「地球倫理」の可能性

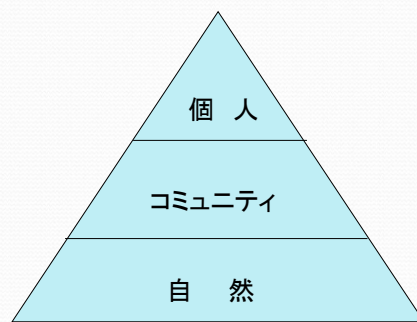
(地球的公共性／地球的スピリチュアリティ)
 …「第三の定常化の時代」における価値原理として



地球倫理の特質…①有限性、②多様性、③ローカル(内在性)とユニバーサル(超越性)の循環的融合

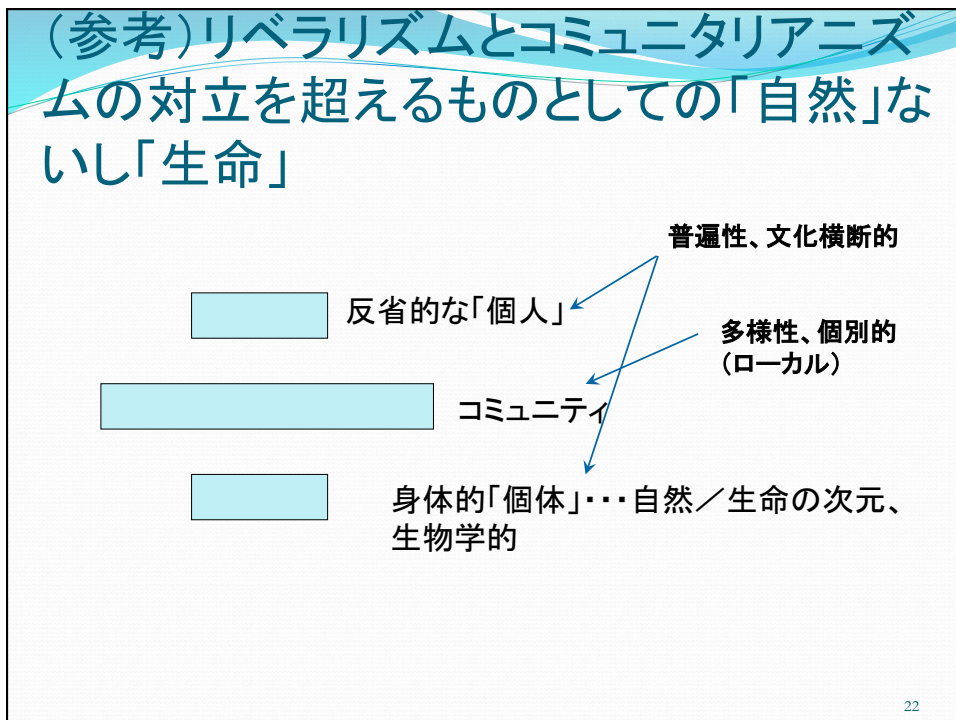
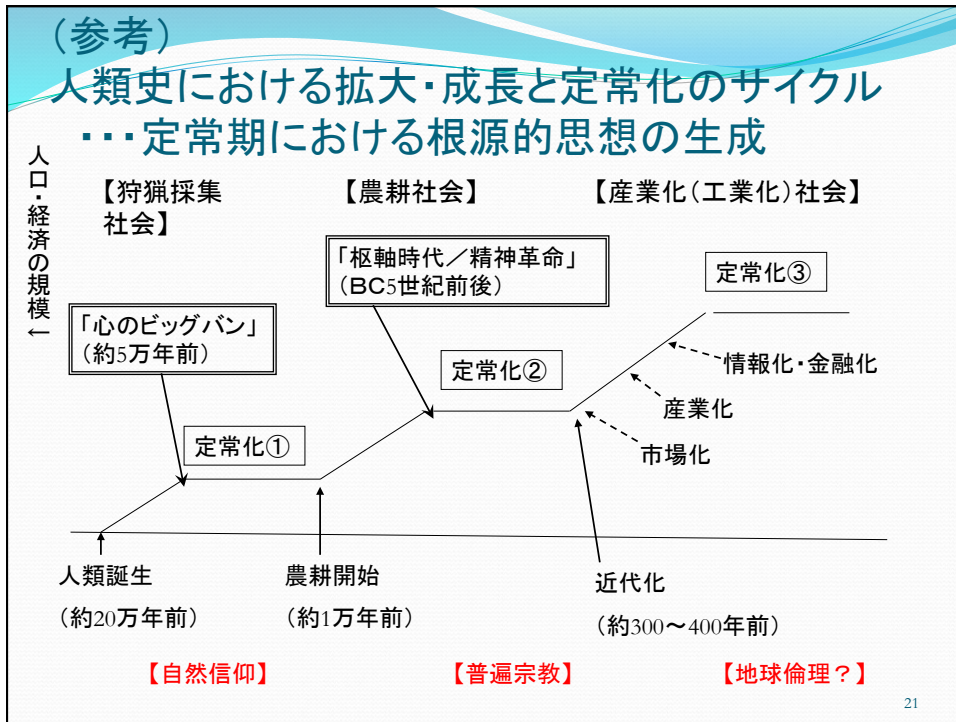
19

地球倫理…ローカル(地域的)とユニバーサル(宇宙的)の循環的融合として



・超越性に向かうベクトルと内在性に向かうベクトルが、地球という有限な舞台において循環的に融合する。
 ・ローカルな自然信仰や根源的な生命的原理を再発見していくことが普遍的(ユニバーサル=宇宙的)価値につながる。

20



3. 福祉の“二極化”と 幸福／不幸

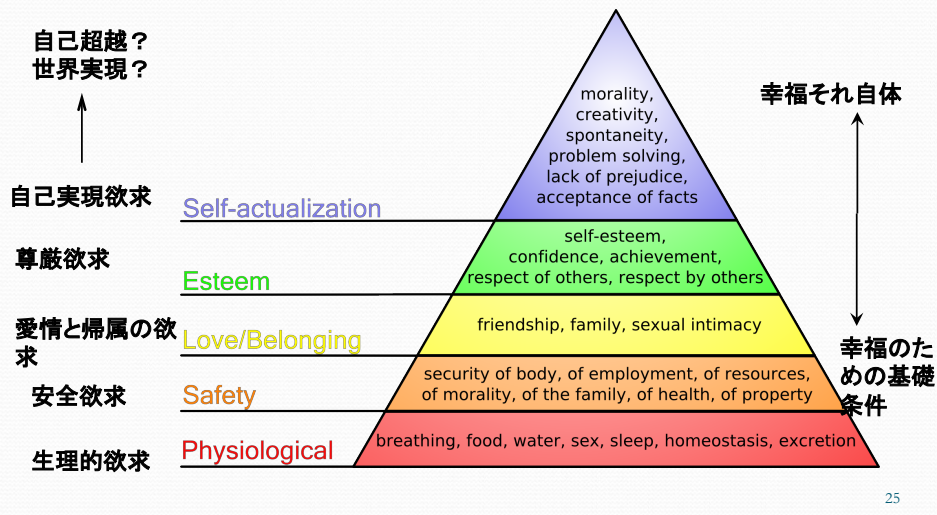
23

現在の日本社会における福祉の “二極化”（レジュメで既述）

- 現代の日本社会においては、一方で「幸福」「存在欲求」など福祉をめぐる高次の欲求が広まりつつあるが、他方では、(格差や貧困の拡大の中で)基本的な生存そのものが脅かされるという状況が浸透しており、ある種の“二極化”が生じている。
- しかし以上の両者は、実は現在の日本社会における同一の構造から派生している二つの局面でもあるのではないか。
- 「同一の構造」→つながりの原理の不在(先の「福祉思想の空洞化」と重なる)。
- (理想的な)可能性としては、上記の二つの欲求は互いに接続していきうる？(社会貢献や他者へのケアへの欲求etc)・・・現実にはそう容易ではないが。

24

マズローの人間性心理学(欲求段階説)と「幸福」の関連



幸福度指標をめぐる議論

- 次のような疑問
- 「『幸福』はきわだって個人的(私的、プライベート)、主観的かつ多様なものであり、それに行政が関与するのは問題ではないか？」
- 「幸福を増やす」のは、民間企業など「私」の領域に委ねればよいのではないか？」 ex.ディズニーランド
- 「行政が積極的・優先的に対応すべきは、むしろ『不幸を減らす』こと(再分配など)であり、こちらはある程度“定型”ないし“客観的”な基準も可能ではないか？」
- (参考)・『アンナ・カレーニナ』の一節と月尾顧問のコメント
- ・「最小不幸社会」、ロールズの正義論・・・リベラリズム

26

疑問への応答①：幸福と不幸

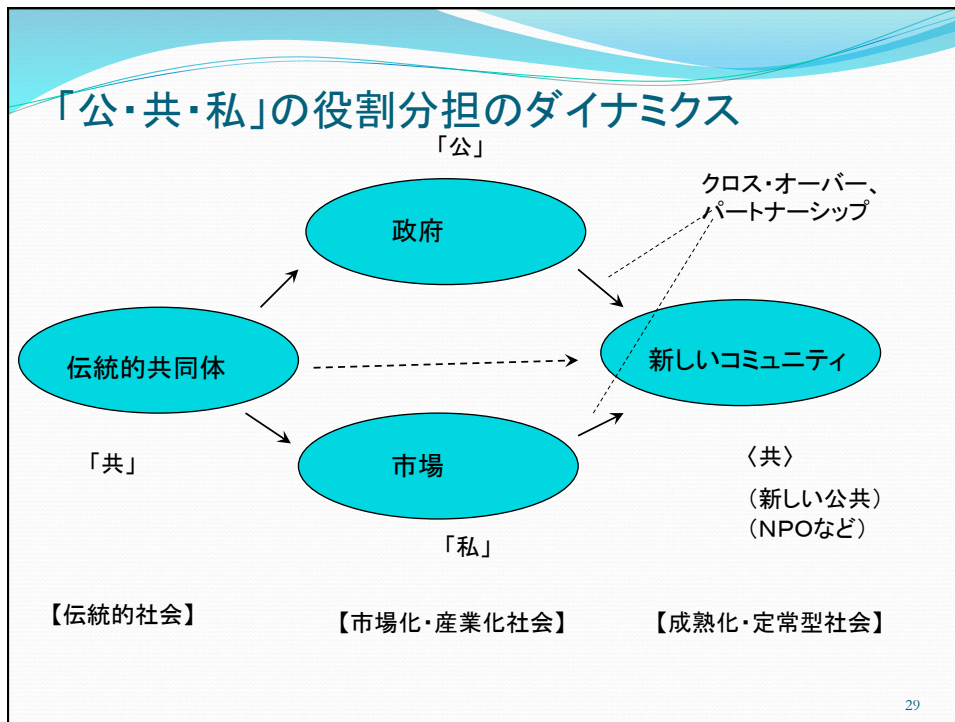
- 幸福度指標を定め政策展開を行うことには、「幸福を増やす」ことのみならず、「不幸を減らす」ことも当然含まれる。
- 例) 石川県加賀市(幸せリーグ参加自治体)・・・幸せを「不幸をなくす」ととらえ、子どもの貧困問題を重点化。スクールソーシャルワーカーの配置など。
- その上で、「不幸を減らす」施策(再分配など)のみならず、人々の主要な関心事となりつつある、より積極的な福祉(幸福)の実現に関する政策展開があつてよい。
 - ・・・「幸福政策としての福祉政策」
 - リベラリズムのみならずコミュニタリアニズム的な発想と親和的。

27

疑問への応答②：行政の役割とコミュニティ

- 現代社会においては、従来のような「公－私」の明確な区分が連続化し、「共」(コミュニティ)の領域を含めて、「公－共－私」のクロス・オーバーが生じている。
 - ・・・近代的な「私的自治の原則」の現代的変容
- 特に「共」(コミュニティ)の領域の重要性
- →幸福度指標の思想は「コミュニティ政策」に自ずとつながる。・・・荒川区における「地域力」政策や町会活動の重視(NPOなど“新しいコミュニティ”も)

28



コミュニティ的つながりの前提条件としての「平等」

- 「1世紀にわたる農園奴隷に、さらに1世紀の黒人差別政策が続いたような地域で、コミュニティを基盤とした社会関係資本が最低レベルを示しているのは、偶然の出来事ではない。**不平等と社会的連帯は、根本的に両立不可能である。**」(パットナム『孤独なボウリング』より)

30

コミュニティと平等 あるいは 水平軸と垂直軸 あるいは 「承認」と「再分配」

- 現実には「階層化されたコミュニティ」は存在し(ex. gated community)、そのような(閉鎖的)コミュニティによって社会が分断されることはしばしば生じる。
- コミュニティという水平的関係性
- 格差・貧困という垂直軸
- 両者は統合的に考えていくべき(一方のみでは「社会」のあり方として不十分)。communityとsocietyの重層構造。あるいは「共同性common」と「公共性public」の両者の重要性。

31

(参考1)「拡大期」の幸福論と「定常期」の幸福論

- 「拡大期」の幸福論・・・近代的幸福論がその代表。個人の自由の重視&功利主義的。権利としての幸福追求権(pursuit of happiness)。
- 「定常期」の幸福論・・・古代(枢軸時代)や近年の幸福論(ブータンも)。個人の内面的な充足(contentedness)や「知足」(contentment)、静穏、平安等を重視。(→アンドリュー・ワイル『ワイル博士のうつが消えるところのレッスン(Spontaneous Happiness)』、角川書店、2012年参照)。

32

(参考2) “自発的”なものとしての「税」と「公－共－私」のクロス

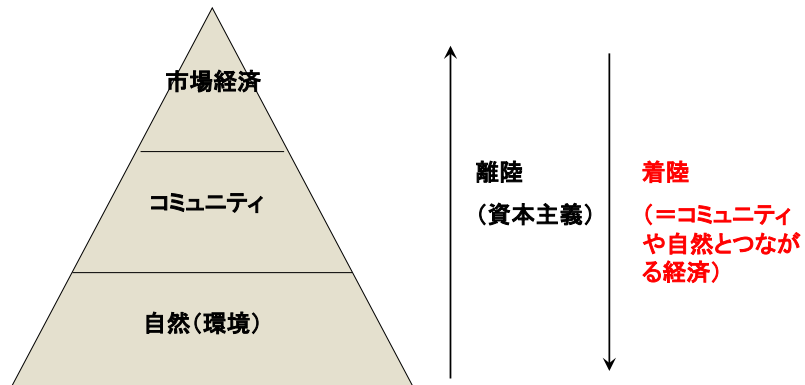
- 日本(やアメリカ等)においては、「税」は(お上やbureaucracyが取っていく)もっぱらネガティブなものとして意識。
- しかし、税そのものは強制徴収のシステム(ないし強制的な再分配)である一方、そうした税の制度を作ることそれ自体は民主的なプロセスを通じて社会的に合意されたものなのだから、成立の根源までたどるとそれは「自発的voluntary」なものと言えるはず。・・・再分配への社会的合意
- 北欧などヨーロッパにおける「税」のイメージないし税意識はこれに比較的近いものと思われる(特に北欧などプロテスタント諸国の場合は教会への税→国家(または地方政府)への税という歴史的経緯あり)。
- 今後はさらに、「自発的な税」のような、従来の「公－共－私」がクロスしたような税の形態も考えられるのではないか？(税と寄付の融合形態、政府への寄付と委託など)

33

(付論) 地域再生と「コミュニティ経済」 ——「相互扶助の経済」の展開

34

「コミュニティ経済」という視点



35

「コミュニティ経済」という視点の重要性

- ・①「経済の地域内循環」・・・ヒト・モノ・カネが地域内で循環するような経済
→グローバル化に対しても強い。
- ・②「生産のコミュニティ」と「生活のコミュニティ」の再融合
- ・③経済が本来もっていた「コミュニティ」的(相互扶助的)性格 ex. 渋沢栄一『論語と算盤』、近江商人の“三方よし”
- ・④有限性の中での「生産性」概念の再定義
・・・労働生産性から環境効率性へ(資源を節約し、人を積極的に使う経済へ)

36

「地域内経済循環」について

- 「地域内乗数効果local multiplier effect」・・・イギリスのNEF (New Economics Foundation) が提唱する概念。
- ナショナル・レベルで考えられてきたケインズ政策の枠組みへの批判。
- 地域再生または地域経済の活性化＝その地域において資金が多く循環していること。
- ①灌漑irrigation・・・資金が当該地域の隅々にまで循環することによる経済効果が発揮されること。
- ②漏れ口を塞ぐplugging the leaks・・・資金が外に出でいかず、内部で循環することによってその機能が十分に発揮されること。

37

「地域内経済循環」について(続き)

- 日本での類似例・・・長野県飯田市の試み
- 「若者が故郷に帰ってこられる産業づくり」
- →「経済自立度」70%を目標に掲げる。
- 経済自立度・・・地域に必要な所得を地域産業からの波及効果でどのくらい充足しているかを見るもの。
- ...具体的には、南信州地域の産業(製造業、農林業、観光業)からの波及所得総額を、地域全体の必要所得額(年1人当たり実収入額の全国平均×南信州地域の総人口)で割って算出。08年推計値は52.5%、09年推計値は45.2%。

38

渋沢栄一『論語と算盤』より

—経済と倫理の統合—

- 「論語というものと、算盤というものがある。これは甚だ不釣り合いで、大変に懸隔したものであるけれども、私は不断にこの算盤は論語によってできている、論語はまた算盤によって本当の富が活動されるものである。ゆえに論語と算盤は、甚だ遠くして甚だ近いものであると終始論じておるのである。」
- 「富をなす根源は何かといえば、仁義道德。正しい道理の富でなければ、その富は完全に永続することができぬ。ここにおいて論語と算盤という懸け離れたものを一致せしめることが、今日の緊要の務めと自分は考えているのである。」
- ……現代風にいえば、「**持続可能性という舞台において経済と倫理が融合する**」という把握。

39

「コミュニティ経済」の例

- 例1) **“コミュニティ商店街(福祉商店街)”**…商店街をケア付住宅、子育て世代・若者向け住宅等とも結びつけつつ世代間交流やコミュニティの拠点に。「買い物難民」減少や、若者の雇用などにも意義。
- 例2) **農業と結びついたコミュニティ経済**…農業・環境と福祉・健康をつなぐ&都市と農村の関係性の再構築。
- 例3) **自然エネルギー拠点とコミュニティ経済**
- 例4) **伝統・地場産業や「職人」の仕事と結びついたコミュニティ経済**…若い世代も関心大。「クリエイティブ産業」としても意義
- 例5) **福祉・ケア**関連のコミュニティ経済

40